

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>○「正しく読む」「正しく書く」という基礎的、基本的な力を確実に身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の持ち方、文字を書く時の姿勢、書き順を繰り返し指導し、学習に対する基本的な習慣を身に付けさせ、学び方の土台を形成する。 正しい日本語を用い、言葉を正しく読むことができるように、口形、声の出し方、間の取り方、言葉の意味や使い方を知り、言葉のまとまりを捉え、音読する力や表現する力を伸ばす。 促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」を正しく活用する知識、技能を身に付け、正しい文章が書ける力をつける。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語の活用場面を国語科以外でも設定し、基礎基本の定着を図る。 スキルタイムや家庭学習において学習の習慣を身に付けさせる。 音読練習等の宿題を課し、家庭との連携し言語環境を整える。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 適宜、児童の様子を確認しながら、鉛筆の持ち方、姿勢、書き順、話し方、聞き方、言葉の使い方等、学習の基礎を習慣化させる。 学習の導入の言葉遊びや読み聞かせ、読書活動を行い、語句のまとまりや関係について興味を持たせ、身近なことを表す語彙を増やしていく。 音読指導を習慣化し文章のまとまりを捉えさせ、正しい口形、発声、間の取り方を身に付けさせる。 全体での発表の場やペアでの活動を増やすことで、正しく言語を用い、自分の言葉で表現する力や聞く力を育む。 日記、手紙、新聞作り等、書く経験を書く表現を多く設け、書いて表現する力を付ける。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①ひらがな、カタカナ、漢字の語彙を確実に身に付けさせるために、読む、書く表現を意図的に整える。</p> <p>②言葉の意味を理解し、正しく読む力を付ける。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①50音表、既習漢字等掲示し、正しく文字を書くことを意識できる学習環境を整える。</p> <p>②意図的に語彙に触れる学習計画をたて、口形、発音、間を意識させ、正しく読むことを習慣づける。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①ひらがな、カタカナ、漢字の語彙を確実に身に付けさせるために、読む、書く表現を意図的に整える。</p> <p>②言葉の意味を理解し、正しく読む力を付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①50音表、既習漢字等掲示し、正しく文字を書くことを意識できる学習環境を整える。</p> <p>②意図的に語彙に触れる学習計画をたて、口形、発音、間を意識させ、正しく読むことを習慣づける。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①ひらがな、カタカナ、漢字の語彙を確実に身に付けさせるために、読む、書く表現を意図的に整える。</p> <p>②言葉の意味を理解し、正しく読む力を付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①50音表、既習漢字等掲示し、正しく文字を書くことを意識できる学習環境を整える。</p> <p>②意図的に語彙に触れる学習計画をたて、口形、発音、間を意識させ、正しく読むことを習慣づける。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ひらがな、カタカナ、漢字を自分たちの身近な物で書き表したり、関連する語彙に触れさせたりする時間を多く設け、言葉を読む、書く力がついた。 苦手な児童には、ひらがな表を机に貼り、できるだけ多く視覚的に文字に触れさせた。 ミニ日記の毎日の積み重ねで、文章への抵抗はなく、書くことができるようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的に自分の気持ちを言葉で表現する力が弱い。 促音、拗音、助詞の使い方、見直しの仕方は繰り返し練習が必要である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」+自分の思ったこと、考えたことを具体的に文章で書く練習が必要である。 促音、拗音、助詞など誤字、脱字が見られる。引き続き練習し、習熟をさせる。 特に、小さい「つ」、「～わ、」→「～は、」 文章を書いた後に見直す習慣づけを継続する。 ひらがな、カタカナ、漢字で書く言葉が混同しないように、言葉の意味を捉え考えて書く練習をして語彙を増やす。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい言葉を使い、自分の考えや思いを自分の言葉で話す、書くことができる児童 			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10までの数の合成や分解の理解の習熟、定着をさせる。 ・文章問題の読み取り、数量の関係に着目して立式することの習熟をする。 ・見直しの習慣化を図る。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚化し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。 ・児童の習熟の度合いに応じて演習量・難易度を選択できるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックやおはじきを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。 ・ブロックを使った操作活動や問題文を絵で描き表したり、図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を意図的に多く取り入れ、思考の過程を表現できる力を養う。 ・文章問題の中での算数的言葉のキーワードに着目する習慣をつけさせ、問題文に取り組む力をつける。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①数の概念を定着させる。計算の習熟ができるように反復学習を行い、基礎的な定着を図る。</p> <p>②思考の過程が分かるように考え方や計算の仕方を半具体物や図、言葉を使ってノートにまとめて表現する場を多く設ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①学習の始めに、1分間チャレンジタイムを設定し、数の合成、分解やたし算、ひき算など問題カードに取り組み習熟を図る。</p> <p>②自分の考えを書く練習を繰り返し行い、定着を図る。ペア学習を取り入れ、図や言葉で立式の根拠を示して説明をさせる。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の1分間チャレンジを繰り返し、10の分解、合成を理解し、次単元への学習にも活かすことができた。 ・自分の考えを伝える習慣が付き、ノートにも図や吹き出しで説明し、まとめる力がついた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を読み取る時に、問題文に出てきた数字の順番に立式することがある。文章を読み取る練習が必要である。 ・見直しをする力が弱い。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指を使用しながら計算する児童もいる。継続して計算に慣れさせる。 ・文章問題を読み取る力をつける。 <p>「わかっていること」「聞いていること」は、引き続き線を引いて確認をする。また、足し算なのか引き算なのかキーワードになる言葉を見付けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直しの仕方を確認し、習慣づけを継続する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に計算をすることができる、場面を想像しながら文章問題を読み取り考えることができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 生活科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活経験の不足、日常生活に必要な基本的な技術が十分でない児童が見られる。 観察する時の着眼点、観察の仕方が分からず、気付いたことを絵や文章で表現する力に個人差がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科での言語の学習を活用し、モデルとなる言語表現を選択したり、自ら考えたりして表現する。 気付きを大切にしたい体験活動に充実を図る。 生き物や植物の世話をすることだけでなく、観察、記録を継続的に行うことで、変化の違いに気付く力をつける。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことのキーワードとなる語彙を全体で確認してから、自分の言葉で具体的にまとめていくようにする。 観察や活動の視点を明確に示し、新たに気付きにつながるようにする。 観察カードなど常時掲示し視覚的に捉えさせた、考えや意見を交流する時間を多く設定し、表現の方法の幅を広げさせる。 日常生活に必要な基本的な技術の一つずつ取り組んでいき、できるようになったか確認をし、技術を増やしていく。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①内容や時間の見通しを持ちながら、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。</p> <p>②変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、文章や絵での表現方法の手本を提示しながら指導する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」をたくさん取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>②観察の5つのポイントを掲示し、確認してから観察する。「見付ける、比べる、たとえる」などの具合的な視点を与えて支援する。交流できる場を設け、新たな気付きへ繋いでいけるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①内容や時間の見通しを持ちながら、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。</p> <p>②変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、文章や絵での表現方法の手本を提示しながら指導する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」をたくさん取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>②観察の5つのポイントを掲示し、確認してから観察する。「見付ける、比べる、たとえる」などの具合的な視点を与えて支援する。交流できる場を設け、新たな気付きへ繋いでいけるようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①内容や時間の見通しを持ちながら、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。</p> <p>②変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、文章や絵での表現方法の手本を提示しながら指導する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」をたくさん取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>②観察の5つのポイントを掲示し、確認してから観察する。「見付ける、比べる、たとえる」などの具合的な視点を与えて支援する。交流できる場を設け、新たな気付きへ繋いでいけるようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見る」「触る」「聞く」「感じる」「考える」を多く経験し、考える力をつけた。 1つの植物を継続して観察することで、観察するポイントを示し、変化を絵や文で表現することができるようになった。 いろいろな植物を栽培する機会を設けたことで栽培している植物だけでなく、校庭などの植物にも目を向け、季節による変化など目が向けられるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 観察したことを言葉で表現することが難しい児童がいる。表現の仕方や観察のポイントをおさえた練習を継続してする必要がある。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察する視点や変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、より具体的に文章や絵で表現する力をつける。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の周りの自然や事象に興味を示し、比較して観察ができたり、違いに気付いたりする児童 			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・リズム打ちや器楽の学習において技能習得に時間がかかる傾向があり、個別指導を丁寧に行う必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。 ・曲を聴いたり絵譜を見たりして曲想の感じ取りを深めたり、様々な表現方法を体験したりして、曲想を感じ取った表現ができるようにしている。 ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲想の感じ取りを深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言を促したりワークシートに記入したりすることで、曲想の感じ取りや表現の工夫に深まりが見られた。 ・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、技能を高めることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを表現に生かせるようにする。 ・技能を定着させ、次の学習に生かせるようにする。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出できる児童が比較的多いが、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりする等の手だてが必要な児童もいる点に留意する。 ・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択や題材計画に軽重を付ける等の工夫をしたり、個別指導を重点的に行ったりする必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことを生かし、思いをもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりすることができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線をもちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。 ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。 ・様々な発想の方法をできるような発想する力をさらに高める。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認するとともに様々な学習場面で何度も活用できるようにする。 ・表したいものを見つけるための様々なアプローチを経験できるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</p> <p>② 表したいものを見つけるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</p> <p>② 児童や作品観察。毎回の授業でねらいにそった活動が行われている。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>① ほとんどの児童が材料や基本的な道具を正しく、使いこなし、自分なりの工夫をできるようになった。</p> <p>② 毎回の授業でねらいにそった活動が行われ、児童は「できる」を実感できていた。</p> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲は高いが、細部の仕上げを丁寧に仕上げることや、共有部の利用の仕方や片付け等、さらに意識付けをしていく必要がある。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律への意識の継続と向上。学習ルールの徹底し、安全確認を常に行い、事故のないようにする。 ・ねらいを焦点化し、児童の主体性を生かしながら、協働的な制作の場を増やす。ICT 機器を活用し、見取りや評価を迅速にし、個別最適化を目指し、きめ細やかな指導をする。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気づき、楽しくつくったり表したりすることができる児童。楽しく発想や構想をし、自分の見方や感じ方を広げたりすることができる児童。楽しく形や色等に関し豊かな生活を創造しようとする児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本運動の経験に個人差があり、運動やゲームを楽しく行うために必要な技能や体の使い方を身に付ける。 ・教え合う場、互いの良い所をまねっこしながら動きを習得できる学習の場を意図的に設ける。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な動きをする運動に触れ、体の動かし方や多様な運動遊びを行う。 ・運動する時の基本の服装を身に付けさせる。 ・集団行動（前へならえ、やすめ、気をつけ、体操の隊形、体育座り、回れ右等）を取り入れる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、協同的に解決できるよう、運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫したりして、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。 ・基本の運動を多く体験させ、体の動かし方を習得し、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。 ・児童同士教え合う場や発表する場を設け、児童が達成感を感じられる学習計画をたてる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 学習カードを使い身に付ける技能を明確にする。</p> <p>②友達同士、よい動きを見付けられ、互いに認め合える学習習慣をつけ、運動の幅を広げさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①ポイントを色分けしたり、ホワイトボードを活用したりするなど、児童が視覚的に理解しやすいようにする。スモールステップによる学習の場を設けて達成感をもたせる。</p> <p>②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を適切に設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 学習カードを使い身に付ける技能を明確にする。</p> <p>②友達同士、よい動きを見付けられ、互いに認め合える学習習慣をつけ、運動の幅を広げさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ポイントを色分けしたり、ホワイトボードを活用したりするなど、児童が視覚的に理解しやすいようにする。スモールステップによる学習の場を設けて達成感をもたせる。</p> <p>②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を適切に設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 学習カードを使い身に付ける技能を明確にする。</p> <p>②友達同士、よい動きを見付けられ、互いに認め合える学習習慣をつけ、運動の幅を広げさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ポイントを色分けしたり、ホワイトボードを活用したりするなど、児童が視覚的に理解しやすいようにする。スモールステップによる学習の場を設けて達成感をもたせる。</p> <p>②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を適切に設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動で、いろいろな動きを多く入れ、体の動かし方を身に付させた。 ・グループ活動を多く取り入れ、教え合う場を通して、互いの良い所をまねっこしながら動きを習得できた。また、友達の良い点を見付けることができたようになった。 ・スモールステップの学習により、達成感を味わいながら学習できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い所は見つけられるが、よりよくなるような具体的なアドバイスを言葉で伝えることができるように見本を見せながら練習する必要がある。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動きは身に付いているが、体がかたい児童が多い。また、ジャンプや短縄など一定のリズムや間隔を取るのが難しい児童が多い。(特に男子)短縄などリズムの取り方など繰り返し練習をし、技をより広げられるとよい。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことを楽しみながら、友達の良い所を真似したり、教え合ったりすることができる児童 			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 道徳科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを想像したり、物事の事象について考えたりする力を高める。 ・自分の生活に結びつけて考えたり、今後の生かそうとしたりする力を高める。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い視点を明確にし、自分の考えや感じ方に気付ける話し合いの場を設ける。 ・考えをもつための時間の確保をしたり、自分の気持ちの視覚化したりする。 ・具体的な場面を思い起こさせることで、自分の生活とつなげて考えさせ、価値への意識付けを行う。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や日常を振り返らせたり、場面を想像しやすいように具体的なものを提示したりする。 ・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。 ・道徳的価値に関わる事象を児童の実態に即して具体的な事例を挙げて考え、自分の生活とつなげて考えさせる。そして、自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①考えをもつための時間の確保やペア学習や動作化を取り入れ、自分の気持ちの視覚化をする。</p> <p>②自分の生活に結びつけて考えられる発問を吟味し、児童の実態に合わせて学習を展開する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ペア学習を適宜入れることで、多様な考えに触れたり、役割演技や動作化を取り入れたたり、気持ちを考えやすくしたりする。</p> <p>②具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを繰り返し行う。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担やペア学習を多く取り入れ、自分の気持ちを考える手立てとなった。 ・ペア学習は、自分の考えをもつことができ、全体発表時には、臆することなく発表し自信をつけることができた。 ・いろいろな考えを聞く機会を多く設けたことで、自分と違う考えを受け入れる様子が見られた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習後、自分の生活とつなげて考えさせる、価値への意識づけが弱かった。 ・考える、話し合うポイントがずれないように気を付ける。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを行う。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな考えに触れ、他者意識をもって、自分の生活へとつなげて考えられる児童 	